



内容目次

- ・糖尿病黄斑浮腫
—もうひとつの糖尿病網膜症—



発行元 地方独立行政法人さんむ医療センター
広報編集委員会
<http://www.sanmu-mc.jp/>

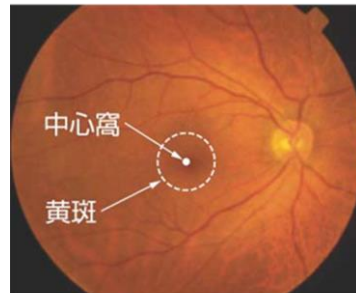
糖尿病黄斑浮腫—もうひとつの糖尿病網膜症—

糖尿病による目の合併症には様々なものがあります。中でも糖尿病網膜症は頻度が高く、重い視力障害を引き起こす可能性があり、進行すると失明に至ります。この糖尿病網膜症の中で黄斑浮腫という状態を伴うことがあります。直接失明の原因となることは少ないですが、職種によっては働き続けられなくなったり、車の運転ができなくなったりする場合があります。糖尿病網膜症の進行に伴い多く見られますが、早期の段階であっても6%程度の方に生じるといわれています。

目の働きをカメラにたとえると、フィルムに相当するのが網膜です。外からの光が角膜、水晶体、硝子体などを通過して網膜に当たり、光を感じ取ります。

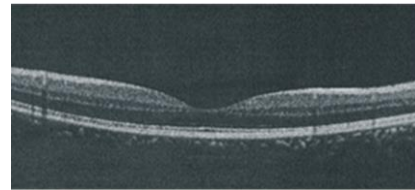
黄斑とは網膜の中心にある、直径1.5mm～2mm程度の小さな部分をいいます。網膜には視細胞という光を感じ取る細胞が並んでいて、黄斑部分の視細胞は黄斑以外の部分より感度が高くなっています。

このため黄斑では良い視力が得られますが、それ以外のところでは十分な視力は得られません。黄斑が障害されると視力は著しく低下してしまいます。〈次ページへ続く〉

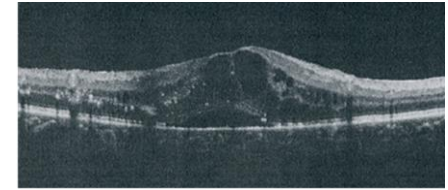


糖尿病黄斑浮腫は、糖尿病網膜症に伴い黄斑部がむくむ(浮腫)状態です。黄斑の中心部まで浮腫が及ぶと、著しい視力障害が生じます。黄斑浮腫を生じる仕組みは非常に複雑で、目の中の様々な要因が関連して起こります。特に糖尿病網膜症で眼内に過剰に産生される **VEGF** (血管内皮増殖因子) が、主な原因であるといわれています。

糖尿病黄斑浮腫では、視野の真ん中が影響を受けます。見たい部分がかすんで見える「かすみ目」、見たい部分がゆがんで見える「変視症」、見たい部分が不鮮明に見える「コントラストの低下」などが起こります。



正常な黄斑の網膜断層像



糖尿病黄斑浮腫の網膜断層像

糖尿病黄斑浮腫の治療

糖尿病黄斑浮腫の治療には、薬物による治療と外科的な治療があります。

薬物による治療

・VEGF 阻害薬

糖尿病黄斑浮腫は、VEGFにより網膜内の毛細血管から血液成分が漏れ出すことで起こります。このVEGFの働きを抑える薬剤(VEGF阻害薬)を眼内(硝子体腔)に注射します。

・ステロイド薬

糖尿病黄斑浮腫は炎症性の要素もあります。炎症を抑えるステロイド薬を、眼球の脇(テノン嚢下)や眼内(硝子体腔)に注射します。

外科的な治療

・レーザー光凝固術

・硝子体手術

実際にはこれらの治療を組み合わせで行っていきます。複数回の治療が必要となるのが一般的です。気になることがありましたら、お気軽にお尋ねください。